

The future to advance

～進歩する未来～

-Future Scientists' School News Letter Vol.2-
2017.12

★GSC 全国受講生 研究発表会

平成 29 年 10 月 7 日 (土) から一橋大学一橋講堂で、今年で 4 回目となる全国受講生研究発表会が行われ、全国 16 の大学から集まった受講生約 120 名が計 44 件のポスター発表を行い、日頃の研究活動の成果を披露しました。

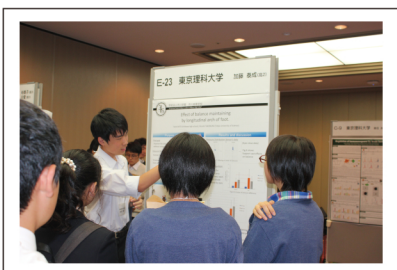
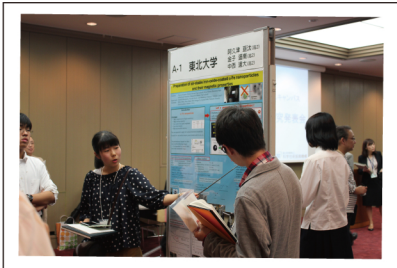
静岡大学からは 11 名が参加し、竹内希海さんが「静岡市におけるセミの分布と羽化行動の解析」を発表しました。参加した受講生は高いレベルの研究にふれ他の受講生や大学の先生方との交流を深めることができ、今後の学習活動や研究を進めるに当たってモチベーションを高める機会になったと思います。



受講生達と引率の先生方



参加した受講生達のポスター発表



FSS からの参加者の感想

静岡市立高等学校 袴田彩仁さん

今回のポスター発表でまず驚いたことは、研究内容の難しさだ。最初にポスター発表の題名の一覧を見た時には、ほとんどの題名の意味が分からなかった。だが、静岡市立高校の科学探求科で、夏に東海地区の SSH の研究発表会を見に行った時には、大体の内容は分かった。つまり、これが全国と地方の差だと思った。僕はこんなにレベルの高い研究をすることができると心配になった。だが、発表者と話してみると、「テーマを見つけるのが大変だ。」と言っていた。また、研究内容の難しさについて話した時にも、「最初は理解できなかった。」と言っていた。つまり、今の僕と同じ状態だったのだろう。このことから、僕も今から頑張ればこのようなレベルの高い研究ができるかもしれないと少し希望が見えた。

ポスター発表で気が付いたことがもう一つある。それは、発表者のトーク力とコミュニケーション力だ。ほとんどの発表者は、聴いている人の頭の中にすらすら入るようなトークをしていて、会話をした時も、楽しく興味の湧く話をしてくれた。また、発表を英語でしている人もいて、英語の質問に対しても適切に英語で回答していたので、コミュニケーション力が素晴らしいと思った。僕もこれから科学探求科のプログラムでビタミン C について研究し、日本語での発表の他に英語での発表も控えているので、トーク力や英語力を身に付けて頑張りたいと思う。

磐田南高等学校 鈴木大介さん

GSC 全国受講生研究発表会では、様々な研究があり個性的なものばかりでとても強い刺激を受けました。自分が行っている地学分野の研究は少なかったですが、様々な分野の研究に触れることで、自分が知らなかった世界を垣間見ることができたからです。そして、とてもあつい情熱をもって研究している人が多く、これから自分たちが研究していく上でもそういったものを大切にしていきたいと思いました。また、研究はもちろん重要ですが、研究や考えを伝える技術や理解する力も大切だと感じました。特に、この研究発表会ではポスターがすべて英語で、発表も英語で行っている所が多く、英語が苦手な僕は危機感を覚えました。英語で研究を聞くという経験は初めてでしたが、自分の知っている英単語が少ないので聞いていてもほとんど理解できませんでした。これから FSS でも英語での討論がありますし、考えを英語で伝えて英語で聞くという機会があるので、英語の勉強を頑張りたいと思いました。

野依教授の講演もとても刺激的なものでした。特に印象に残っていることは「異に出会う」ことの大切さについてです。科学系のノーベル賞受賞者が平均して 4～6 か所の研究所を経ているということや、たとえ一人の科学者の独創的発見であったとしてもそれは多くの人の手によって発展して社会的価値を持つようになることなどから、異に出会うことを大切にすることをおっしゃっていました。自分とは違う文化や考えを持っている人とたくさんコミュニケーションをとり、また、違った環境に自分を置くということを積極的にやっていたいと思いました。全国という場において様々な研究をみることができ、いろいろな人とふれあえたことはとてもいい刺激になりました。今後、自分たちの研究をしていく上で高い目標をもって行っていきたいです。

浜松北高等学校 鈴木琉斗さん

各大学の受講生の発表を見て驚愕した。同じ高校生、まして自分より年下の一年生が科学的専門用語や英語を使い熟し、大人たちに自分達の研究の説明をしていたのだ。また彼らの研究は説明を聞いても理解できないような難しいものも含んでいた。強く劣等感を感じたが、同時に自分も来年ここで発表したいという思いが湧いてきた。そして、そのためにはこれから研究にどのように取り組むべきなのか考えた。そのヒントは、野依良治先生のお話の中にあっただと思う。まず、最も重要なテーマ決めだ。僕は、研究室の教授との相談の結果、今まで進めてきた研究を中断し、新しい事を始める事にした。また、GSC の発表から感じたように今まで誰も目を付けなかった些細な疑問に注目し、独創的な研究を行うことが大切だと思う。マックスウェーバーの言葉「良い問題を見つけて、正しく答える」を意識したいと思う。

また、研究を進める上でチームの存在は個人の研究より大きな力を発揮する。現代のグローバル社会において国際共同作業に目を向けることで国の孤立化、国家間の争い防止に繋がる。僕は、今のところ一人での研究活動になりそうだが、コミュニティを広げより良い研究が出来たら良いと思う。

そして、何より様々な発表を聞いて「科学は進歩し続ける宿命にある」ということを実感した。今までの発表ににおいて、今後の展望があったのだ。科学の無限の可能性を再認識し、それに果敢に臨む高校生の姿に刺激を受けた。とても有意義な時間だったと思う。改めて、FSS,GSC の関係者の方々に感謝したい。